



【主な議論】

● 安全の取組み

福知山線列車事故を始めとする事故の風化防止、安全考動計画検証アンケートへの取組み方、災害時の計画運休の更なる浸透や車両・設備の災害防止等について

● 新型コロナウイルス関連

コロナ禍での働き方とその検証、一時帰休に対する説明不足への反省、第2・3波への備え、時限措置の内業務改善に繋がる制度の恒久化、冬の臨給等について

● 業務課題

地上職の職場環境改善、車両系統の業務区分見直し等について

代表質疑では、本社総支部の小林企画部長(新幹線鉄道事業本部)が、4点について発言し運動方針に肉付けを行った。

● JR西労組運動の安全の原点である福知山線列車事故の風化防止、安全に対する感度を高め、引き続き本社総支部として積極的な取組みを継続していく。

● 新型コロナウイルスを受け、働き方や業務の見直しがなされた。これを契機に労使で議論を深め、働き方改革を推進していきたい。また、コロナに伴う緩和措置について振り返りをしっかりとすべきだ。

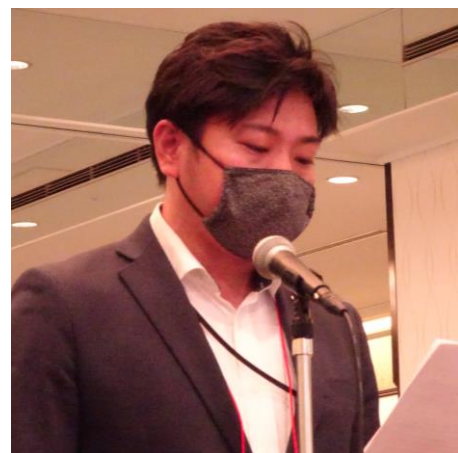
【中央本部答弁】コロナ禍の働き方、時限措置についてしっかりと検証し、今後の働き方改革に繋げていきたい。

● 「小学校休業等対応助成金」について、現場契約社員から悲痛の声を聞いている。何故制度があるにも関わらず、会社は利用しないのか、労使で議論し議事録として残しておくべきではないか。

【中央本部答弁】制度上、新たな休暇制度の仕組みを作る必要があり、現状の制度で対応できる、また現場要員の実情からこの制度を利用することは困難であると会社と議論している。

● コロナ禍の影響が深刻な中、冬の臨給を見直すことはあるのか。

【中央本部答弁】冬の臨給について、現時点では何も申し上げられないが、年間臨給での妥結はJRで当社だけの労使の信頼関係によって成り立っている意義を強調したい。



運動方針(案)は採択の結果、満場一致で承認され、上村委員長による団結ガンバローで大会を締めくくった。さらに、大会終了後には長谷川代表取締役社長にお越し頂き、これからの新しい世の中に対応できる事業計画の見直し、変革に労使の力を総団結し、この困難を乗り越え未来を創っていこうと力強い激励を頂いた。

本社総支部 第28回定期大会

2020年8月29日(土)13:00～ サードプレイス弥生